

小牧のむかしむかし

吉五郎伝説

あつまれ吉五郎一家 歩いて出会う旅マップ

徒歩2時間コース... 始点・終点 名鉄「小牧駅」

小牧市には、狐にまつわる多くの伝説が残っています。

そのなかでも小牧山に住んでいたとされる狐の親分吉五郎は、創作伝説として寛永年間(一六二四〜四四)に作られ、宝暦・天明の頃(一七五〜八九)、いはいやされるようになったといわれています。狐の伝説は、この他にも極めて多彩に伝えられ、貴重な狐話の宝庫となっています。

小牧山には今でも狐のすみ穴があるとか...。吉五郎親分とその仲間たちをめぐる物語と出会う旅にあなたもでかけませんか。

1 子ぎつね思いの吉五郎

吉五郎はとっても子ぎつね思い。合瀬川でおぼれていた子ぎつねがお百姓に助けられると、その夜、すごい美人に化けて、よそのお嫁入りのご馳走を失敬してお礼にした。また、きつね取りの名人が吉五郎の子供を取ると、その夜、おっそろしい顔した代官所役人に化けて「お前、火薬を使ってきつねをとってるといじゃねえか。代官所まできてもらおうか」と低いドスのきいた声。「へっへい。私が悪うございました。きつねは全部逃がしますからお許しを」と名人平謝りしたと。吉五郎子ぎつねを奪い返した。



【吉五郎と子ぎつね像】(中央1丁目・小牧駅西ベストラリアンデッキ上)

2 芝居見物によく来た吉五郎

あこがれの役者がいっぱい来て、悲しいものから楽しいものまでいっぱい芝居に。町の人や、村のもんがいっぱい見に来て、涙流したと。ゲラゲラ笑ったと。そのついでに、お重箱ひらいて、ごちそう食おうとしたが中からはらっぱ。「あれれ、ご馳走ごさえてくるの忘れたのかな」と首傾げたと。いやいや、これ吉五郎やお初が、芝居に夢中になつとる間に盗んで食つてしまふんだと。



きのえねば 甲子座跡 (小牧2丁目・吉田写真館北)

大正13年(1924)頃、当時横町・上之町一帯の大地主だった穂積伊左衛門が開設した芝居小屋。昭和21年(1946)に火事で消失するまで興業が続いていた。近所にはたばこ屋。北にキャンディー屋(トイレ付き)が隣接し、稲荷を記っていた。

—「小牧の産業史話」

3 お月様まつとん(吉五郎の恋人お初)

毎夜毎夜、鶏を失敬していくお初ぎつね。お月様のまんな前に来て埋める。そして「お月様のまつとん」となえてから遊びに行くそうなの。食べようと帰ってくるが、お月様のまんな前だけ掘っても鶏は一羽も出てこなかったと。なぜ?



くろくもがみ 黒須雲神社・お初稲荷 (小牧原新田)

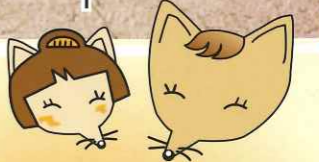
4 名譽のきつね

「小石を投げよ」というと小石を投げる。「踊りが見たい」といって踊らせてくれるきつねがいたと。ある日、お侍が「知っている字をかくてくれ」というと、「一瞬間顔を消したのが、やがて侍の持つ白紙にモシヤモシヤと書いて消した姿を消したそうなの。お侍「やっばり名譽のきつねじや。わしでさえ読めぬ字を書いたわ」



くろくもがみ 黒須雲神社 (間々本町)

9 お梅の元恋人 藤九郎



【福節稲荷】(小牧4丁目)



きつね業平と評判高いお留蔵の藤九郎は、恋しいお梅ぎつねをとられ、その上捨てられたのでお梅と因って復讐を企てたが敗れた。この稲荷はこの2匹を祀っている。

8 電車と競争した吉五郎

電車が小牧を走るようになった。その音が「キチバカキチバカ」と聞こえた。「悔しいな」と思った吉五郎は、しかえししようと思つた。美人に化けて木の葉っぱの切符を出して毎夜毎夜ただ乗りしたんだと。



【ありひの岩倉線】



岩倉線の電車道跡・昔の小牧駅 (小牧4丁目) 岩倉〜小牧駅間5.1kmを結び大正9年9月に小牧線として開通。当時の小牧線は現在の小牧線より900mほど西へ行った旧の市街地に初代小牧駅(小牧4丁目660番地付近)が置かれた。県道25号(春日井一宮線)の北側を並行するように走り、外堀2丁目東交差点辺りで県道と合流し岩倉方面へ向かっていた。昭和23年5月に岩倉支線(通称岩倉線)と改称されたが、昭和39年3月に廃線となった。

—「上街道 小牧宿」

7 お嫁になったお梅ぎつね

藤九郎ぎつねと相思相愛のお梅ぎつね。あまりのべっぴんに吉五郎が横恋慕。いやいや吉五郎の妻になるがまもなく捨てられるという悲恋の美女狐。お初という新しい妻が出来たからだ。



おはやし 神明社御林稲荷 (小牧1丁目)

6 きつねの嫁入り

それはいつも初め一つだけボーと現れ、あつという間に三つ、四つ、さらに百、二百と増えた火の玉が小牧山めざしたと。嫁をもらった子ぎつねが吉五郎に挨拶に行く行列だ。



あいせがわ 合瀬川堤防 (堀の内2丁目付近)

5 親分きつねの本拠・吉五郎稲荷

尾張一円をおさめたきつねの大親分。岩崎山の勘八、下原山春日井市の銀九郎、二子山(江南市)の文次郎、下津山の助五郎を四天王と呼び、その四天王の子分たちがまた大勢の子分を従えて四百匹はいたという。死後、町の人の夢によく出るようになった。「ライバルの藤九郎も妻のお梅やお初もみんなお稲荷様に祭られているのに自分だけ祭ってもらえないので、それで夢に出る」と小牧婦人会が相談してお金を出し合せて建てた。



【小牧山山腹】(堀の内1丁目)

小牧山稲荷神社は、大手道を少し登った左側にあり、いつも「小牧山稲荷大明神」と書かれた幟がたくさん立っている。稲荷神社には、本殿に吉五郎稲荷大神、奥宮に吉五郎稲荷大神、本殿左横に初里姫龍神大神の三社が祀られている。五穀豊稔、商工業繁盛、子孫繁栄、病氣平癒などの御利益があるとされ訪れる人も多い。 —「続小牧山城 一昭和以降の小牧山」—